

D部門論文委員会意見交換会

2013年8月30日(金)

山口大学 吉田キャンパス 第11会場
共通教育棟 本館2F 28番教室

1

議事次第

- 論文委員会の体制紹介・和文誌編修長・英文誌編修長あいさつ
森本和文誌編修長
大石英文誌編修長
- 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について
- 電子査読システムの運用状況 について
寺田和文誌副編修長
- 査読マニュアルについて
森本和文誌編修長
- 論文委員意見に対する回答
森本和文誌編修長
大石英文誌編修長
- フリーディスカッション

終了予定:13:10

2

論文委員会の体制紹介・
和文論文誌編修長・英文論文誌編修長
あいさつ

論文誌D(産業応用部門誌) 編修長(和文誌)

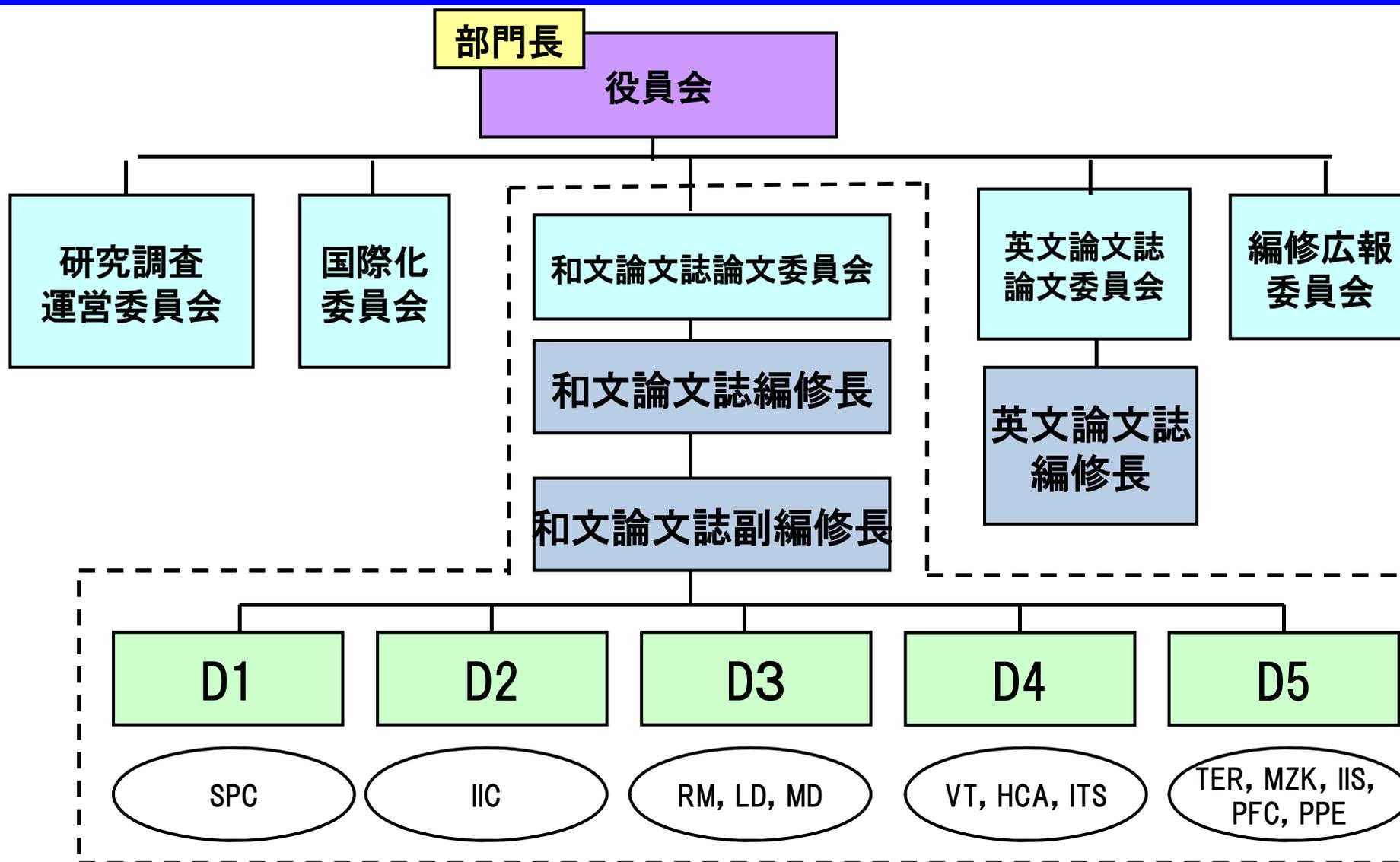
森本 雅之 (東海大学)

英文論文誌 編修長(英文誌)

大石 潔 (長岡技術科学大学)

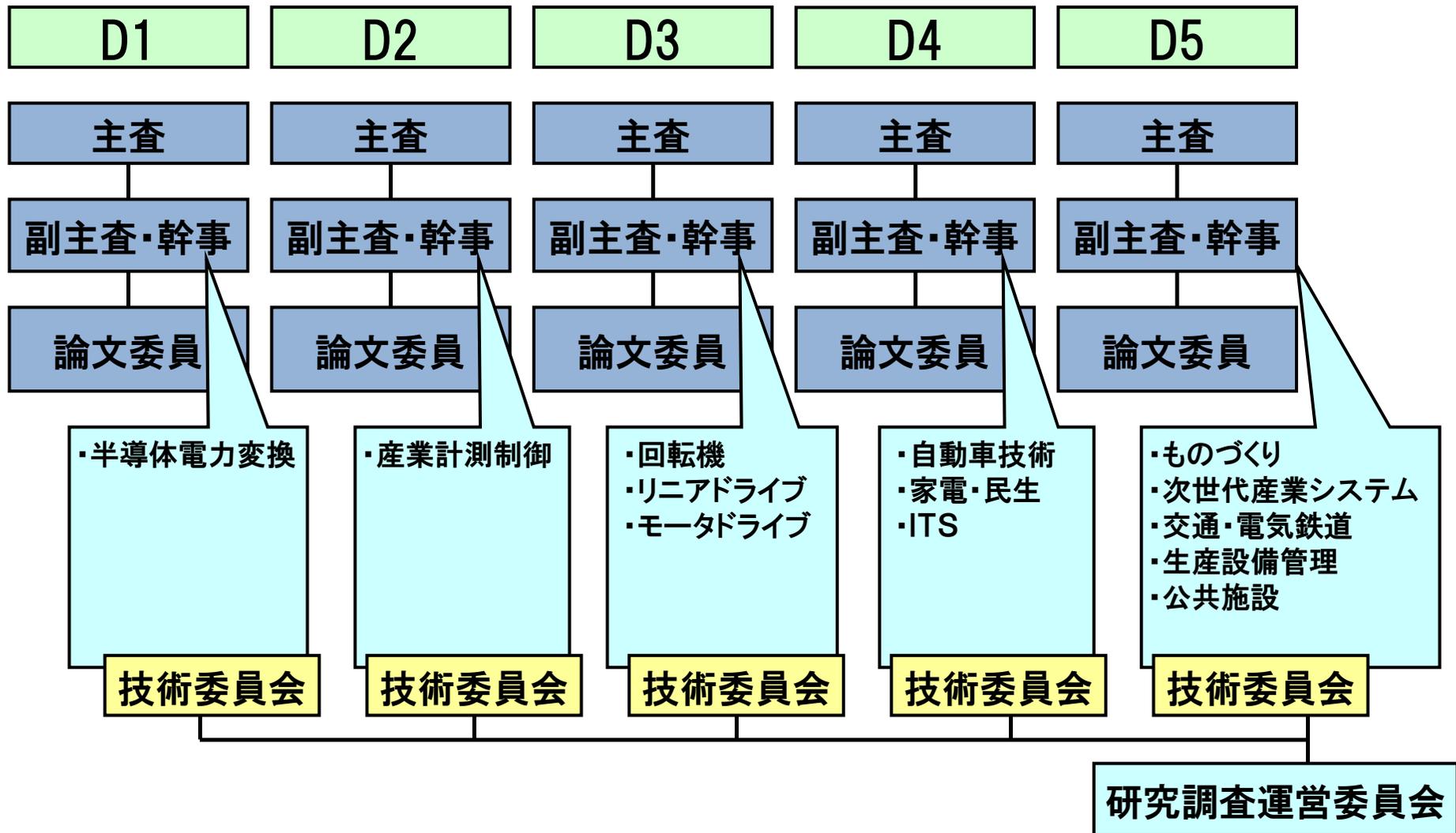
3

D部門における論文委員会



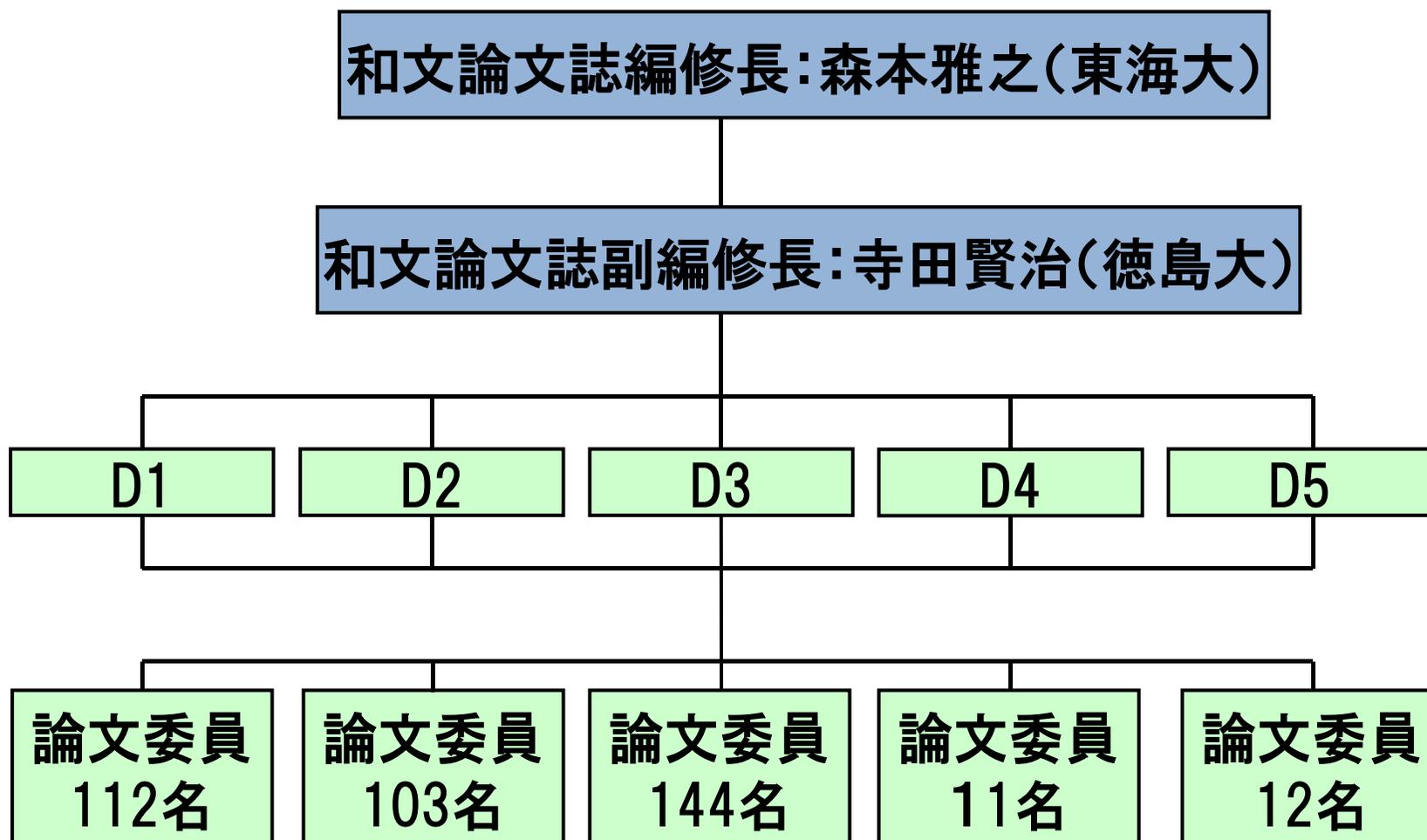
4

和文論文誌論文委員会の組織



5

和文論文誌論文委員会の構成



6 2013年度和文論文誌 論文委員会委員

D1	役職	氏名	所属
	主査	綾野 秀樹	東京工業高等専門学校
	副主査	中沢 洋介	東芝
	幹事	三野 和明	富士電機
	〃	森實 俊充	大阪工業大学
	〃	和田 圭二	首都大学東京
	〃	星 伸一	東京理科大学

D3	役職	氏名	所属
	主査	野口 季彦	静岡大学
	副主査	樋口 剛	長崎大学
	幹事	榎本 裕治	日立製作所
	〃	廣塚 功	中部大学
	〃	森下 明平	工学院大学
	〃	山本 吉朗	鹿児島大学
	〃	山本 修	職業能力開発総合大学校
〃	山本 康弘	明電舎	

D2	役職	氏名	所属
	主査	岩崎 誠	名古屋工業大学
	副主査	高橋 悟	香川大学
	幹事	駒田 諭	三重大学
	〃	満倉 靖恵	慶應義塾大学
	〃	内村 裕	芝浦工業大学
〃	藤本 博志	東京大学	

D4	役職	氏名	所属
	主査	叶田 玲彦	日立製作所
	副主査	浜松 芳夫	日本大学
	幹事	真田 雅之	大阪府立大学
	〃	宮武 昌史	上智大学

D5	役職	氏名	所属
	主査	近藤圭一郎	千葉大学
	副主査	浜松 芳夫	日本大学
	幹事	市川 紀充	工学院大学
	〃	古関 隆章	東京大学
	〃	鈴木 健嗣	筑波大学
	〃	山中 理	東芝
	〃	結城 和明	東芝

7

英文論文誌論文委員会体制紹介

英文論文誌編修長
大石 潔(長岡技術科学大学)

D6	役職	氏名	所属
	主査	横山智紀	東京電機大学
	副主査	藤田英明	東京工業大学
	幹事	芳賀 仁	長岡技術科学大学
	〃	未定	未定

D7	役職	氏名	所属
	主査	柴田昌明	成蹊大学
	副主査	藤本康孝	横浜国立大学
	幹事	石川 潤	東京電機大学
	〃	残間忠直	千葉大学

D8	役職	氏名	所属
	主査	久保田寿夫	明治大学
	副主査	小坂 卓	名古屋工業大学
	幹事	近藤圭一郎	千葉大学
	〃	真田 雅之	大阪府立大学
	〃	鳥羽 章夫	富士電機

広報・HP担当委員
元井直樹(横浜国立大学)
横倉勇希(長岡技術科学大学)

- 気軽に投稿できる和文論文誌と英文論文誌をめざそう！
- 読みたくなる論文を掲載しよう！

論文の著者と査読者に共通認識を持っていただくことが重要

- 査読マニュアルの周知・徹底
- 電子ジャーナルにふさわしい論文題名、アブストを考えよう

9

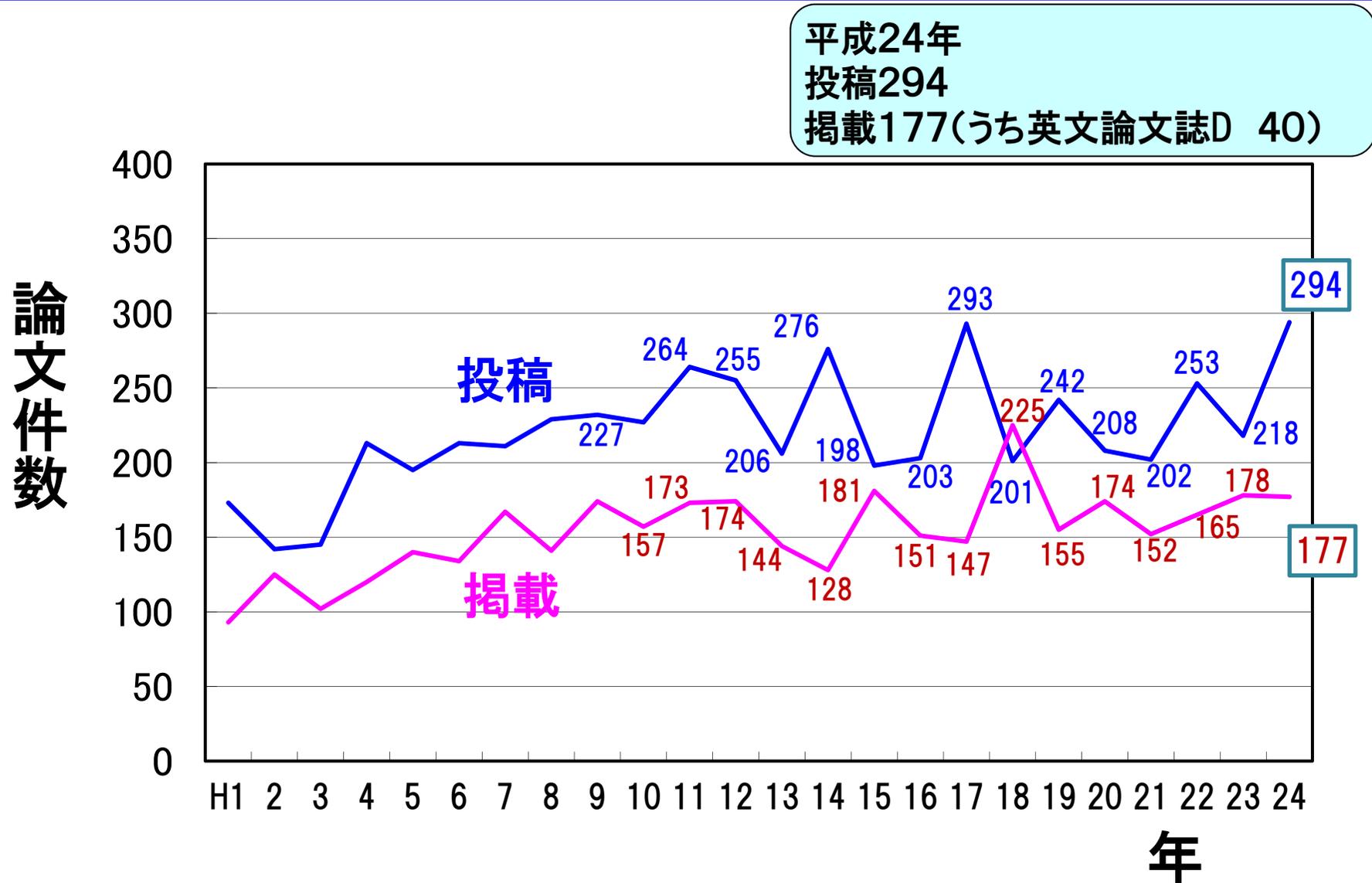
本日の出席予定者数

	委員数	出席者	欠席者	未定
D1	112	22	19	71
D2	103	11	28	64
D3	144	24	54	66
D4	11	6	0	5
D5	7	2	2	8
D6	3	1	0	2
D7	4	2	1	1
D8	4	0	2	2
編修広報委員	34	2	10	22
合計	427(重複含)	70(重複なし)	116	241

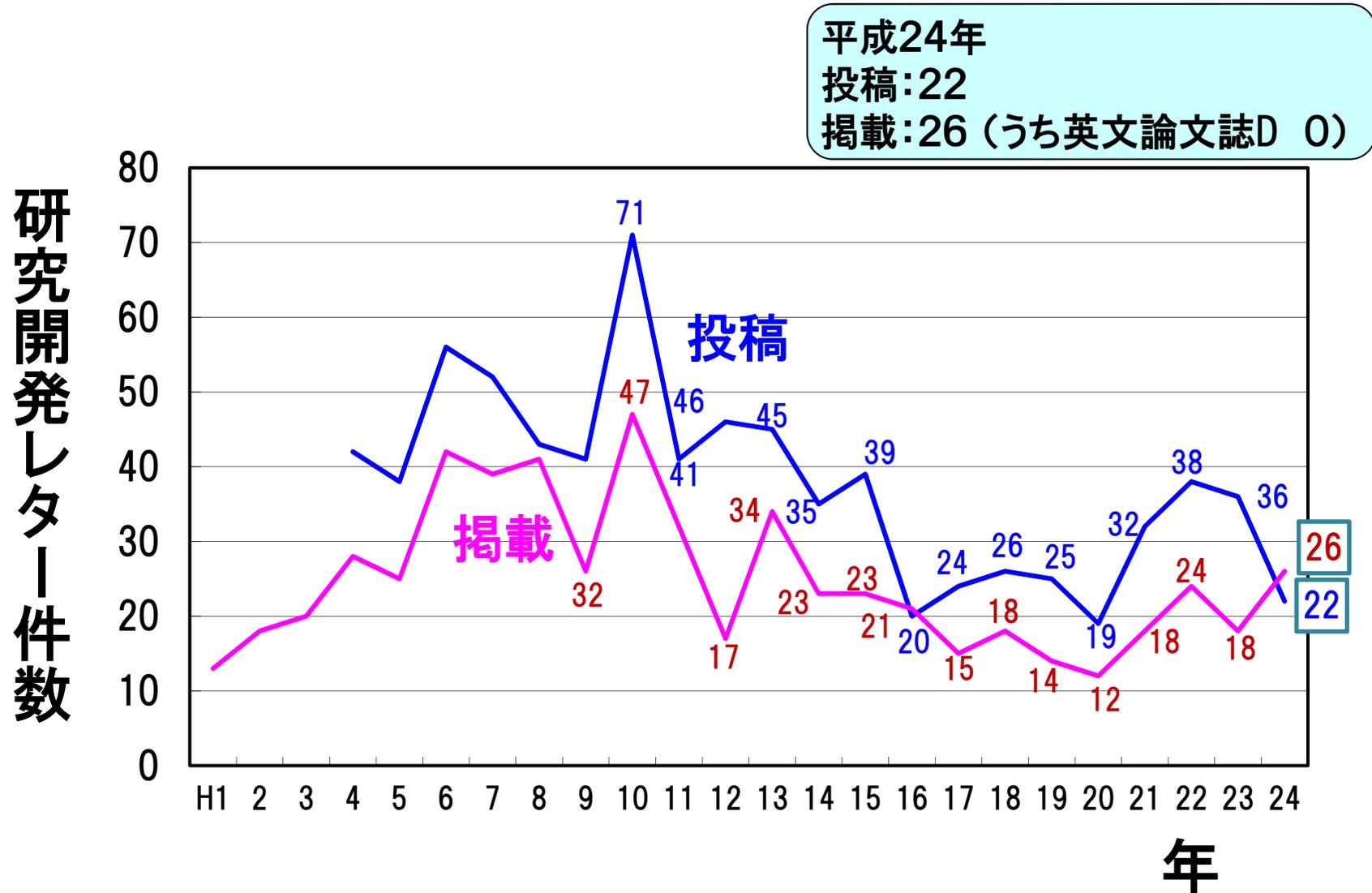
出席者総数:70名 ('12年:72名, '11年: 72名)

10 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・ 掲載状況について

D部門 論文投稿・掲載件数の推移



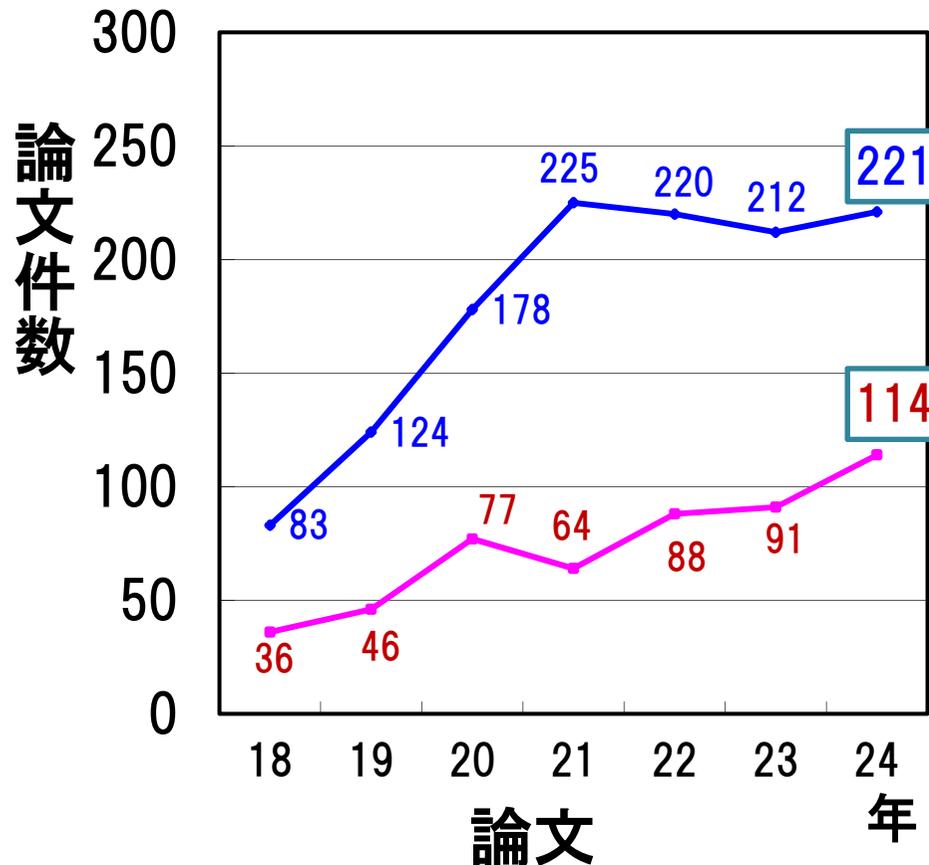
12 D部門 研究開発レター投稿・掲載件数の推移



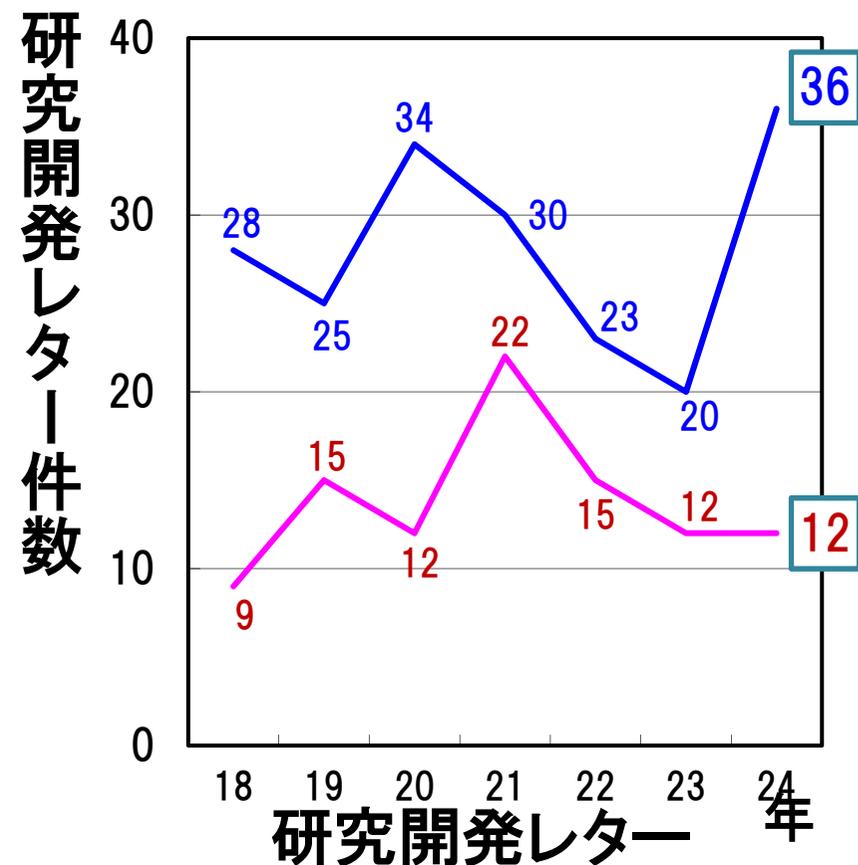
全部門 共通英文論文誌

論文・研究開発レター 投稿・掲載件数の推移

平成24年
投稿221件 掲載114件
(D部門:投稿41件)



平成24年
投稿36件 掲載12件
(D部門:投稿1件)



14 IEEJ Journal of Industry Applications (電気学会英文論文誌D)

- 平成24年7月から発刊(隔月)
- アメリカThomson社の“Science Citation Index Expanded (TM)(SCI)”に取得を目標

2012年 7月 「Power Electronics」(6件:特集論文, 2件:一般論文)

2012年11月 「Motor Drive and Related Technologies」

2013年 1月 「Motion Control and its Related Technologies」

2013年11月 「Technologies of Rotating Machinery」

2014年 3月 「Motor Drive and its Related Technologies」

参考: 共通英文誌

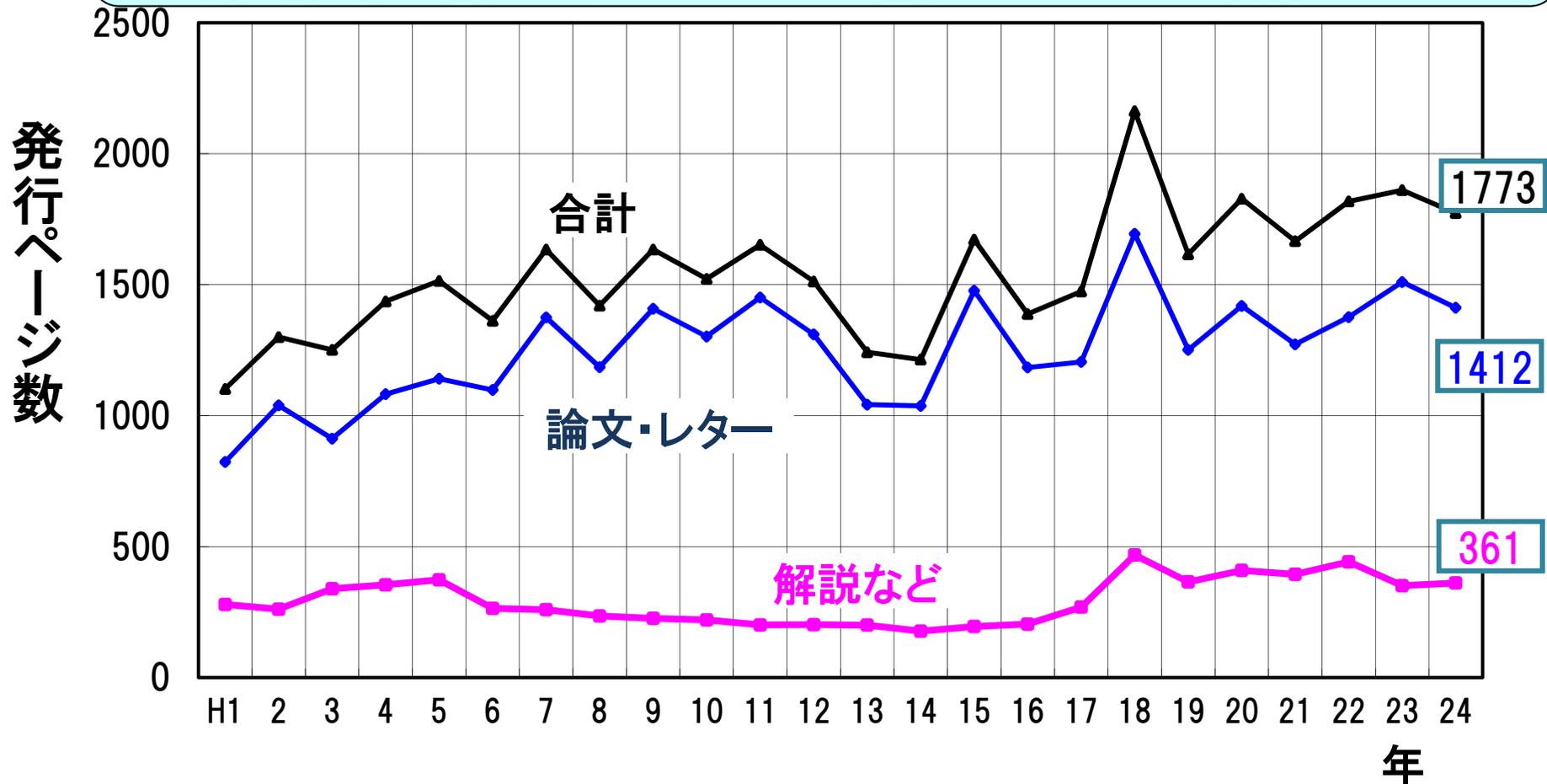
平成24年D部門関連の一般論文投稿が41件

D部門 発行ページ数の推移

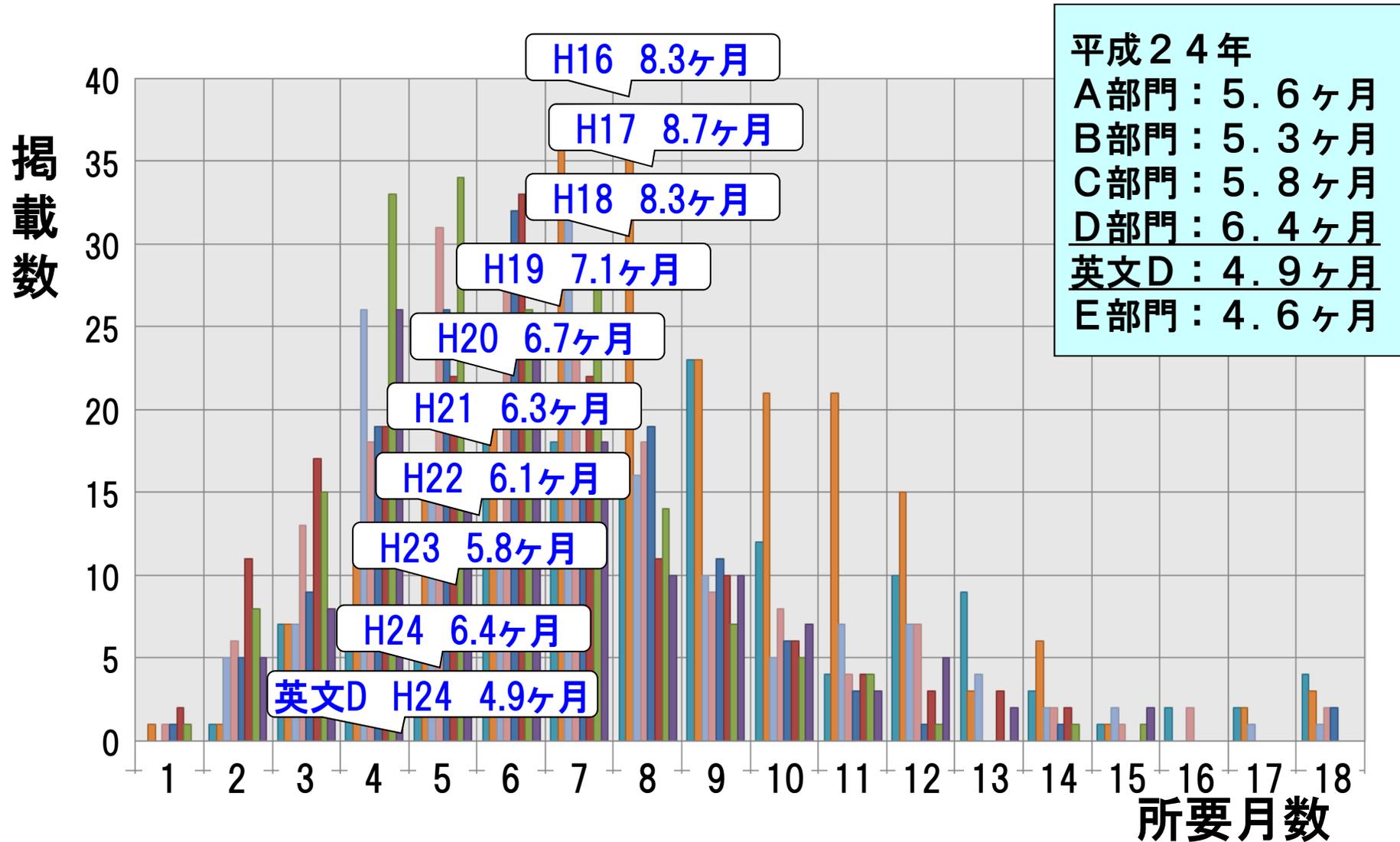
平成24年度

論文・レター1412ページ 解説など361ページ 合計1773ページ

(うち英文論文誌D 論文・レター320ページ 解説など46ページ 合計366ページ)



D部門 論文掲載までの所要月数



17 電子査読システムの運用状況について

副編修長 寺田賢治
(徳島大学)

18 電子投稿・査読システム運用状況

- 2012年10月より、「新サーバー」稼動
 - 旧サーバ:残り2件
- 2012年12月で、「2名再査読制」試行終了
 - 問題点
 - 著者に不利益なケースが生じた
 - 採否決定までの所要期間がのびた
- 2013年1月より、「電気学会の査読フロー」に統合
 - 2名再査読制度:残り8件

編修長

森本 雅之
(東海大学)

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。

- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

-
- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
 - 論文の査読は論文指導ではない。
 - 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作るよう、査読者は論文を早く取り上げるよう努力をすべき。
 - 次の論文を出したくなるような査読をすべきである。
 - 何でも掲載すればよいというのでは勿論ない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力がなくなる。

22 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面のみならず, 考え方や纏め方, 各種応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容, 類似内容が発表されていないか

-
- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載(照会后掲載)(B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
 - 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

25 1回目の査読でA判定をつける場合の 判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性, 創造性, 有用性のどれが認められるかを(複数でも良い), 明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

-
- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。
 - 掲載決定後、最終原稿を作成する過程で意図的に論文として不適切な文言を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
 - 査読マニュアルの内容は、常に改善してゆきます。
 - Extended Summaryは英文誌の発刊もあり廃止を検討中。

和文誌編修長 森本 雅之
(東海大学)

英文誌編修長 大石 潔
(長岡技術科学大学)

- | | |
|-------------------|----|
| ● 査読への対応, 謝礼等について | 4件 |
| ● 査読システムについて | 5件 |
| ● 査読のやり方, 内容について | 3件 |

合計12件, ご意見・ご質問を頂戴しました。
ありがとうございました。

H24年:11件, H23年:3件, H22年:18件

30 【ご意見・ご質問】 査読への対応, 謝礼等 (1)

Q: 査読者に対する何かしらの”ご褒美”があっても良いのではないのでしょうか。(以前はあった, と聞きました)

Q: (毎回言っていますが)特に企業様の査読者やエディタに対して何らかの形で労をねぎらう仕組みが必要かと思えます。10本査読したら投稿料を無料にする, 部門大会の懇親会に招待する, などご検討お願いいたします。

Q: 査読委員に在籍はしており, 自身も現役で電気自動車用モータ開発に従事しておりますが, この数年間査読依頼がありません。該当する案件がないのか, 年齢ゆえ敬遠されているのか, いずれにしても実質的に職務がないなら退いて別の方にお譲りしたほうが良いと思えます。ご一考ください。

31 【ご意見・ご質問】 査読への対応, 謝礼等 (2)

Q: 論文そのものに関することではありませんが、表彰の件です。永年地道に学会活動を続けてこられ、かつ、これまでに受賞の機会に恵まれなかった方に対して贈られる論文査読貢献賞(?)でしたか、今後も漏れのないように選考をお願い致します。またこの賞に限らず、選考漏れを防ぐ一つの有効な方法として、表彰式の会場で、「次年度の表彰対象者としてふさわしい方がおられたら、この場で受け付ける」と参加者に告げて申し込み用紙を用意しておくか、またはWebである期間受け付けるなどすると、効果的であると思います。15年も前ですが、IEEE-IAS—Annual Meetingで表彰式の直後に、この様な方法で各賞の推薦の機会があったので、ある日本の方をある賞の受賞者として推薦したところ、後日「数名から同一人物への推薦があったので、代表して推薦書を取りまとめしてほしい」との依頼があり、めでたく翌年の受賞に結び付け事ができました。このように、授賞式の直後に一般からの推薦を受け付けるのも効果的な場合があると思います。御検討いただければ幸いです。表彰委員会マターでもありますので、そちらで検討頂ければ結構です。

- 査読はボランティアでお願い致します。
- 一方, IEEEのように査読してくれた方のお名前を出して謝意を表するようなことは検討します。論文誌ではなくニュースレターへの掲載が妥当かもしれません。

-
- 幹事，主査が若くなってきた，なかなか，えらい先生方に査読を頼みにくい，というのは正直なところでは。とはいえ，ふさわしい方に査読をお願いしたいので査読者それぞれの査読可能分野のアップデートもお願い致します。
 - 査読功労賞の推薦方法については現在役員会で表彰基準を見直しています。このご意見はそちらに反映させたいと存じます。

34 【ご意見・ご質問】 査読システムについて (1)

Q: 電子投稿査読システムは良くできたシステムだと思えますが、欲を言えば、査読期限が近づいた際(3日前程度)に未査読の場合にはリマインドのメールが自動配信されると良いかと思えます。電子投稿査読システムは良くできたシステムだと思えますが、欲を言えば、査読期限が近づいた際(3日前程度)に未査読の場合にはリマインドのメールが自動配信されると良いかと思えます。

Q: 大変よい査読システムと思われれます。

35 【ご意見・ご質問】 査読システムについて (2)

Q: 査読時, 参考文献を探すのに時間がかかります。主要文献は添付してもらうことはできないでしょうか?

Q: 査読期間を短縮するのは, 投稿者には良いのですが, 査読側の負担が大きくなることを忘れないでほしい。

Q: 論文投稿から著者への照会が遅い。査読者に査読期限を守って頂くとともに論文幹事団の速やかな対応を切に願います。(特にD部門の英文論文誌)

36 【回答】 査読期限・文献添付について

- 現在は査読者に対しては期限経過後に催促のメールを出しています。31日後から7日毎です。つまり、リマインドにはなっておりません。期限前のリマインドメールが必要かどうかをまず検討させていただきます。しかしながら、一生懸命論文を書いた著者のためにも期限前に、しかも極力早く査読していただけるようお願いいたします。
- 文献添付はシステム上難しいと思いますが、ご要望は受け止めます。参考文献を著者が添付すると、逆に査読者はそちらも熟読を強制されるような負担増の意味合いも出てくるかと思えます。
- 査読者にはご苦勞をかけますが、早めの査読をお願いいたします。

37 【ご意見・ご質問】 査読のやり方, 内容 (1)

Q: 英文論文で, 明らかに著者が日本人で査読者も日本人ですのでつたない英語で照会するよりもわかりやすいと思い紹介文を日本語で書いたら英語にするように要請が参りました。また, 英文論文を投稿して帰ってきた英語の照会文の意図がよくわからなかったために論文委員会に質問したことがあります。が結局, 照会文以上の回答は得られませんでした。英文論文の場合に学会誌掲載の論文の質を向上させるために, 著者と査読者のコミュニケーション(照会文)はいかにあるべきかを議論してはいかがでしょうか。(英文論文に限った話ではありませんが…。)

38 【回答】 査読のやり方, 内容 (1)について

- 英文論文誌は、電気学会D部門の国際化と英文論文誌Dのインパクトファクターを目指しています。そのため、世界中の誰から投稿しても、すべて同じ基準で、英文での投稿、英文での査読、英文での採否決定を実施することを基本にしています。論文の採否までの公式記録はすべて英語を基本としています。従いまして、査読結果の照会文は英語を必須となります。このことは英文論文誌Dを立ち上げるときに、最初から目標であり目的です。よろしくお願い申し上げます。
- なお、査読結果にレベル差が無いように、投稿者に査読結果を理解してもらえるように、査読結果は毎回、各論文幹事、主査、英文編修長の3者間で、合議審議を行い、その記録を残しております。英文論文誌委員会主査会も努力をしております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

39 【ご意見・ご質問】 査読のやり方, 内容 (2)

Q: 論文委員会の席上でも申し上げましたが, 査読者の中には査読ルールやフロー, 判定基準など基本的なところの認識が不足している方もいらっしゃるようです。一方, 査読者(特に新任の方)に対してこのような基本事項を教育する場というものが, この意見交換会しかなく, あとはOJTというのは, いささか乱暴に思えます。どのような形式でも良いですので, 査読者に最低限の基本事項を植えつける場を意見交換会などでもっていただけると良いのですが。

Q: 幹事殿に申し上げてありますが, 実験データのないシミュレーションだけの論文は通常の論文と扱いを区分されるようご検討ください。シミュレーションだけの論文は, 幹事のご意見のように, 表題を[〇〇のシミュレーション]と限定するのも結構かと存じます。

40 【回答】 査読のやり方, 内容について

＜査読者の資質向上＞

- 査読は論文委員会からお願いしていますが、あくまでボランティアとしてお願いしています。ルール、フローはボランティアをやるうえで自らご認識いただかなくてはならない基本です。査読者のより一層の自覚をお願いせざるを得ないです。物事の性質上どうしてもOJTにならざるを得ません。
- 幹事側から気が付いた場合、査読者とやり取りをより一層やってゆくようにします。

41 【回答】 査読のやり方, 内容について

＜論文の表題＞

- 電子ジャーナル化して題名の重要さは増してきました。論文として区別することは考えていませんが、「題名が内容を適切にあらわしているか」については査読の時に幹事ともども検討し、要すれば照会事項に含めたいと思っています。

42

フリーディスカッション

終了時間:13:10

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました